

社全協公開学習会

生涯学習・社会教育と高等継続教育の現代的架橋

—国民の学習の自由と公共性の保障—

日時:11月6日(日)14:00~16:30

開催方式:Zoomによるオンライン開催

司会:長澤成次さん(千葉大学名誉教授)

報告:姉崎洋一さん(社全協委員長/北海道大学名誉教授)

コメンテーター:荒井容子さん(法政大学)

【報告者より】

私の研究の原点は、卒論で取り組んだ「地域に根ざす国民教育運動—恵那教育会議の分析」(1974.3)です。あとがきに「教育実践や運動は決して、何か出来上がった理論によって、「切り刻まれ」たり「総括され」たり、されうるものではない。その際問われるのは、実践や運動を分析しようとする人間の人間観そのもの」である。「恵那教育会議」は人として取り組む「教育の民衆的基盤を問うた」と書きました。そして、大学院に進学してからは、民衆教育の実践として社会教育を研究対象にし、それまでの教育行政研究から社会教育行政・生涯学習研究に発展させました。(修論は「現代社会教育行政研究序説」1976.3)博士後期課程では、修論を発展させていくことを課題としました。

職を得てからは、職場での担当科目(主として教職科目+専門科目)と、フィールドとしての多様な「実践現場」に関わりながら、テーマは、高等継続教育研究へと発展しました。社会教育の中核をなす自己教育は高等教育と接続することによって、広がりや深まりを持つからです。その先駆的事例は、英国に見出すことができ、フィールド調査もしてきました。結果として、私は、幾つかの異なる教育領域—教育行政・教育法、青年教育、成人教育・社会教育・生涯学習、高等継続教育・学校—を越境するかたちで研究を行ってきたといえます。今回のテーマを「生涯学習・社会教育と高等継続教育の現代的架橋」と題した理由でもあります。その理屈付けの援護を求めると、ガート・ビースタ著『民主主義を学習する—教育・生涯学習・シテイズンシップ』(勁草書房、2014)に共感していると告白しておきます。そこにおいて、ガート・ビースタは、教育・生涯学習・シテイズンシップ」の関係をとらえるために、「わたしは、この研究を、いくつもの異なる教育領域—学校、高等教育、成人教育、生涯学習を含めて—を越境するかたちでおこなう」それは、「市民学習とシテイズンシップ教育の社会化の構想」であり、また「学習経済」に還元されない「学習する民主主義」の実験とのべています。従来の専門分野の硬い概念から解き放って、<越境する教育学>(=戦後教育学の革新)を志向してきたわたしにとっては、我が意を得た感をもちました。なお、ガート・ビースタのいう「学習する民主主義」は、私は、制度論的に引き取って、「国民の学びの自由と公共性の保障」の探求に置き換えたいと思います。(姉崎洋一)

申込み:人数管理のため、事前に氏名・所属をお書き添えのうえ、11月3日(木・祝)までに社全協事務所までメールでお申し込みください(定員100名)。

社全協事務所 japse@nifty.com

前日までに事務局よりZoomアドレス等の参加情報をメールでお送りします。メールにあるパスコード等を入力の上ご参加ください。

参加費:無料 ~どなたでもご参加いただけます~

申込み・問合せ:社会教育推進全国協議会

〒162-0818 東京都新宿区築地町19 小野ビル2階

Tel・FAX 03-3235-4143 メール japse@nifty.com

最新の情報は社全協ホームページで→ <http://japse.main.jp/>